

## 利根川上流ダム群等の現状と今後の見通しについて



矢木沢ダムの貯水状況（令和5年11月6日撮影）

令和5年11月7日

関東地方整備局

# 1. 利根川上流9ダム等の現状

## (1) 利根川

### 1) 栗橋地点上流域平均降水量の状況（令和5年11月6日0時までの降水量）

栗橋地点（埼玉県久喜市栗橋地先）上流域における1月の降雨量は平均値（昭和23年～令和4年の75年間の平均）の約50%（22mm）、2月は平均値の約57%（26mm）と平均値の約半分の降水量でした。6月には台風2号の影響等による降雨で270mm（平均値176mm）となり平均値を上回りましたが、7月の降水量は、平均値203mmの半分に満たない約44%（90mm）でした。8月は平均値の約94%（193mm）、9月は平均値の約74%（154mm）、10月は平均値の約78%（102mm）となっており、平均値を下回る傾向が続いています。

（図-1、表-1 参照）



図-1 利根川栗橋地点上流域平均降水量（令和5年11月6日0時まで）

表-1 利根川栗橋上流域平均降水量（令和5年11月6日0時まで） 単位：mm

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平成6年	27	50	52	23	139	107	104	153	346	87	26	29	1,143
平成8年	26	35	68	47	98	117	155	78	217	80	55	23	999
平成9年	33	33	59	74	179	173	170	167	206	14	94	20	1,222
平成13年	79	35	75	23	136	176	116	366	321	173	46	23	1,569
平成24年	43	57	115	98	206	192	190	87	221	85	55	47	1,395
平成25年	43	38	20	134	46	168	152	153	244	224	24	48	1,294
平成28年	69	36	57	104	56	156	134	328	312	55	68	56	1,431
令和2年	76	25	99	134	104	211	278	81	163	146	10	29	1,356
令和3年	34	45	102	78	95	181	256	271	151	77	59	70	1,419
令和4年	28	47	58	127	142	134	282	118	217	65	70	36	1,324
平均値① (S23~R4)	44	46	68	91	117	176	203	206	209	130	59	39	1,388
平均値② (H15~R4)	45	44	71	95	116	166	230	197	203	160	62	52	1,441
令和5年	22	26	86	64	138	270	90	193	154	102	0		1,145
平均値①に 対する割合	50%	57%	126%	70%	118%	153%	44%	94%	74%	78%	0%		83%

注) 平均値①はデータが存在する期間（75ヶ年）を平均したもの

平均値②は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したもの

2) 利根川上流9ダムの貯水状況等（令和5年11月6日0時現在）

利根川上流9ダムの貯水量は、1月、2月の少雨の影響により平成9年度冬期に利根川で取水制限が実施された際の貯水量に迫るまで減少しましたが、北千葉導水路等の運用、雪解けによるダムへの流入量の増加により貯水量は増加しました。7月より河川流量の著しい低減に伴いダムからの補給量が増加しました。8月の中旬以降、台風などにより貯水量は増減を繰り返しながら徐々に回復状態が続きました。その後、9月初旬の台風13号の影響や農業用水の取水量の減少により貯水量が増加し、11月6日現在の合計貯水量は、3億8,826万m<sup>3</sup>（貯水率約70%）となっています。（図-2、表-2参照）

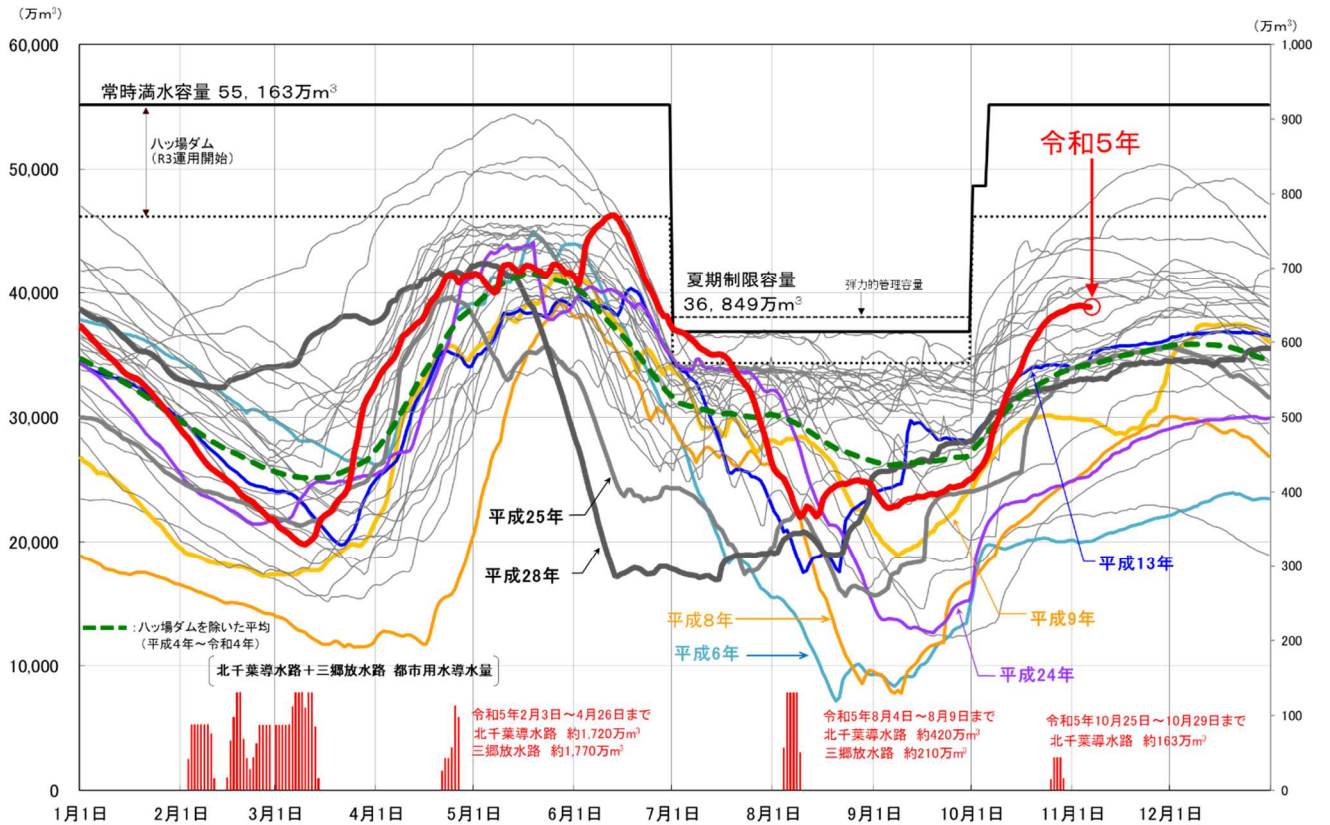


図-2 利根川上流9ダム合計貯水量図（令和5年11月6日0時現在）

表-2 利根川上流9ダム ダム別貯水量（令和5年11月6日0時現在）

ダム名	有効容量 (万m <sup>3</sup> )	貯水量 (万m <sup>3</sup> )	貯水率 (%)
矢木沢ダム	11,550	10,670	92%
奈良俣ダム	8,500	5,520	65%
藤原ダム	3,101	1,983	64%
相俣ダム	2,000	895	45%
藪原ダム	1,322	493	37%
ハッ場ダム	9,000	6,427	71%
下久保ダム	12,000	5,376	45%
草木ダム	5,050	4,914	97%
渡良瀬貯水池	2,640	2,548	97%
9ダム合計	55,163	38,826	70%
8ダム合計の平均値 (平成4年～令和4年)		34,200	(平均値に対して114%)

※有効容量は常時満水容量であり、貯水率は常時満水容量に対する貯水量の割合  
 ※過去の貯水量平均値は、ハッ場ダム貯水量を含めず8ダムの合計貯水量で計算したもの

## (2) 鬼怒川

### 1) 佐貫地点上流域平均降水量の状況（令和5年11月6日0時までの降水量）

佐貫地点（栃木県塩谷町佐貫地先）上流域における1月の降水量は平均値（昭和47年～令和4年の51年間の平均）の約59%（30mm）、2月は平均値の約50%（26mm）、3月は平均値の約85%（63mm）、4月は平均値の約66%（68mm）と平均を下回る降雨量でした。6月には台風2号の影響等による降雨で248mm（平均値180mm）となり平均を上回りましたが、7月の降水量は、平均値228mmの半分に満たない約38%（87mm）でした。8月は平均値の約118%（321mm）となりましたが、9月は平均値の約74%（211mm）、10月は平均値の約74%（116mm）となっており、平均値を下回る傾向が続いています。

（図-3、表-3 参照）



図-3 鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量（令和5年11月6日0時まで）

表-3 鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量（令和5年11月6日0時まで）単位：mm

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平成24年	40	47	101	111	314	276	227	109	354	113	71	75	1,838
平成25年	45	35	14	147	46	171	177	172	411	301	29	66	1,614
平成26年	13	121	94	77	100	437	223	355	109	271	72	85	1,957
平成27年	55	67	82	68	61	204	276	201	624	28	112	47	1,825
平成28年	66	35	31	109	63	138	94	401	306	49	53	47	1,392
平成29年	91	45	38	74	93	95	242	337	200	392	18	62	1,687
平成30年	73	19	174	74	132	94	240	330	328	107	31	51	1,653
令和元年	23	12	71	71	149	245	251	266	132	590	64	25	1,899
令和2年	106	19	78	172	108	135	231	102	369	120	12	44	1,496
令和3年	34	56	125	101	99	186	255	364	169	91	111	116	1,707
令和4年	56	53	61	115	207	145	296	162	239	77	62	48	1,521
平均値① (S47~R4)	51	52	74	103	124	180	228	272	284	156	82	48	1,654
平均値② (H15~R4)	51	42	64	89	125	176	245	243	287	189	69	65	1,645
令和5年	30	26	63	68	150	248	87	321	211	116	0		1,320
平均値①に対する割合 (%)	59%	50%	85%	66%	121%	138%	38%	118%	74%	74%	0%		80

注) 平均値①はデータが存在する期間（51ヶ年）を平均したもの

平均値②は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したもの

2) 鬼怒川上流4ダムの貯水状況等(令和5年11月6日0時現在)

鬼怒川上流4ダムの貯水量は、3月上旬より雪解けによりダムへの流入量が増加し、4月14日には貯水率約95%となり、ほぼ満水となりました。4月中旬以降は農業用水の需要を受けダムからの補給量が増加しましたが、6月は台風2号の影響等により貯水量を維持することができましたが、7月より河川流量の著しい低減に伴いダムからの補給量が増加しました。8月中旬の台風7号の影響を受けて以降、貯水量は増減を繰り返しながら少しずつ増加し、11月6日現在の合計貯水量は、1億2,949万m<sup>3</sup>(貯水率51%)となっています。(図-4、表-4参照)

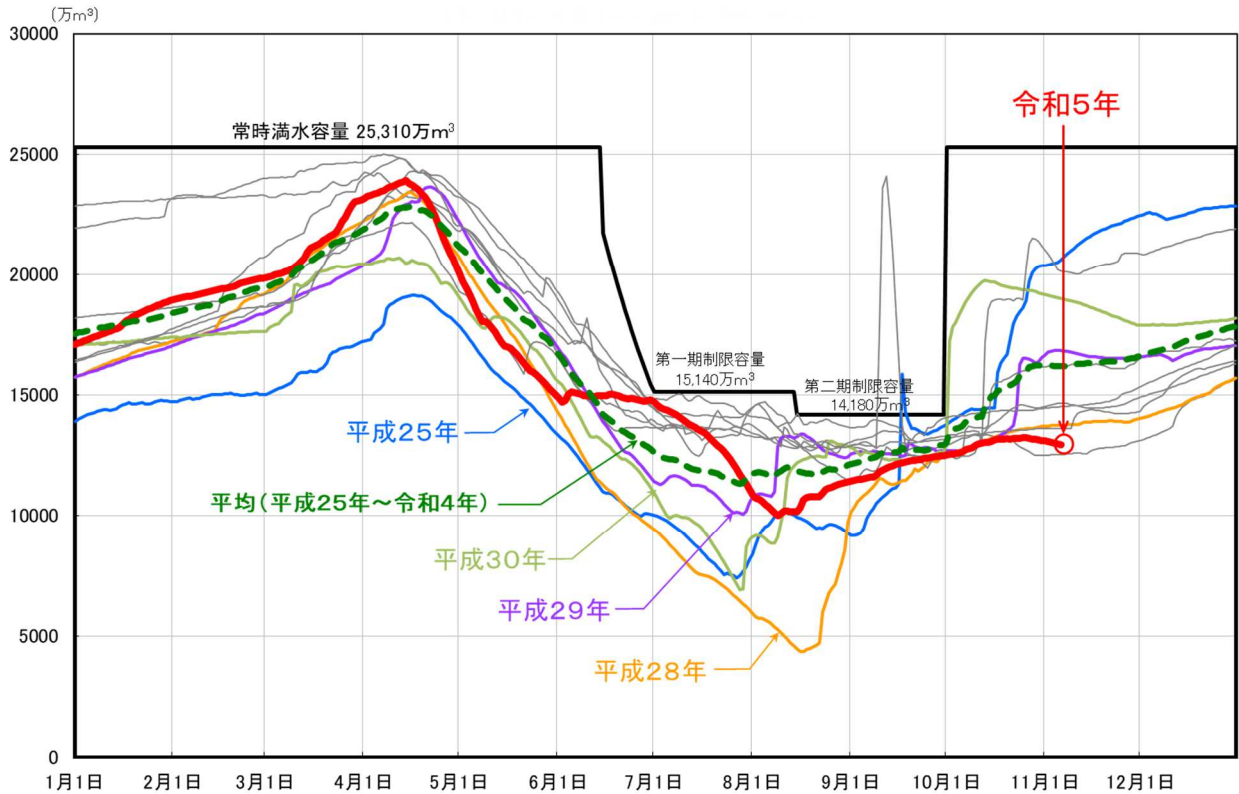


図-4 鬼怒川上流4ダム合計貯水量図(令和5年11月6日0時現在)

表-4 鬼怒川上流4ダム ダム別貯水量(令和5年11月6日0時現在)

ダム名	有効容量 (万m <sup>3</sup> )	貯水量 (万m <sup>3</sup> )	貯水率 (%)
五十里ダム	3,200	119	4%
川俣ダム	7,310	5,842	80%
川治ダム	7,600	3,088	41%
湯西川ダム	7,200	3,900	54%
4ダム合計	25,310	12,949	51%
4ダム合計の平均値 (平成25年~令和4年)		16,194	(平均値に対して80%)

※有効容量は常時満水容量であり、貯水率は常時満水容量に対する貯水量の割合

(3) 荒川水系

1) 秋ヶ瀬地点上流域平均降水量の状況 (令和5年11月6日0時までの降水量)

秋ヶ瀬(埼玉県志木市宗岡地先)地点上流域における1月の降雨量は平均値(昭和40年～令和4年の58年間の平均)の約17%(6mm)、2月は平均値の63%(25mm)、4月は平均値の41%(39mm)と平均値を大幅に下回る月がありました。6月には台風2号の影響等による降雨で296mm(平均値164mm)となり平均値を上回りましたが、7月の降水量は、平均値190mmを大幅に下回る25%(47mm)でした。8月は平均値の約83%(173mm)、9月は平均値の約75%(173mm)、10月は平均値の約42%(67mm)となっており、平均値を下回る傾向が続いています。

(図-5、表-5 参照)

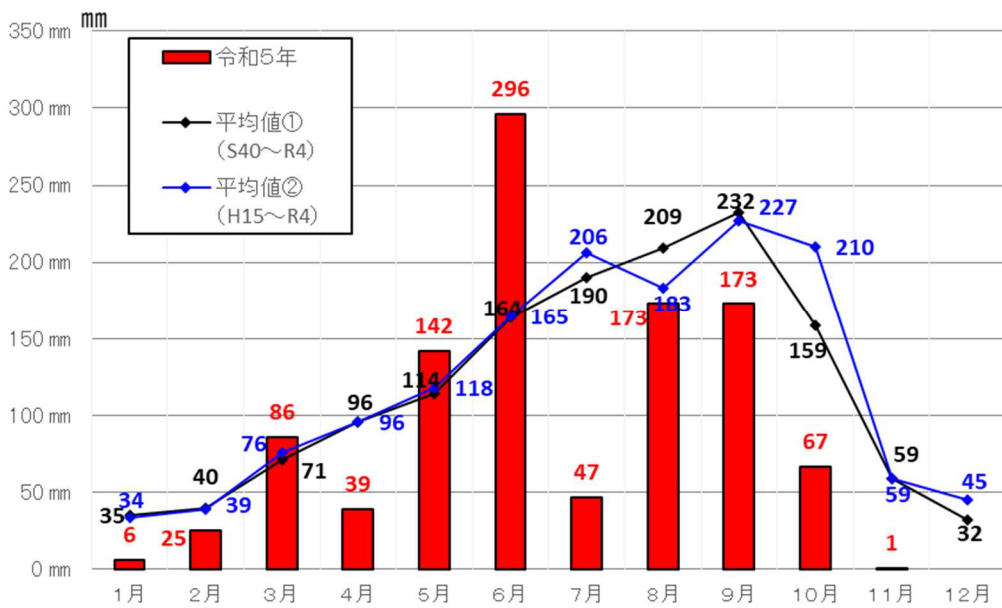


図-5 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量 (令和5年11月6日0時まで)

表-5 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量 (令和5年11月6日0時まで) 単位: mm

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平成24年	36	54	93	86	257	217	102	65	245	93	54	33	1,335
平成25年	35	18	37	152	36	172	94	77	238	327	17	46	1,249
平成26年	8	179	51	51	73	512	125	182	125	286	62	28	1,682
平成27年	41	23	48	84	47	192	281	213	322	26	119	28	1,424
平成28年	75	53	74	72	44	119	90	462	247	31	87	60	1,414
平成29年	24	10	73	67	67	70	218	263	138	488	13	7	1,438
平成30年	27	17	160	53	124	118	200	184	340	44	21	24	1,312
令和元年	10	24	97	58	91	239	225	137	166	725	80	29	1,881
令和2年	95	11	105	186	103	221	304	56	261	209	5	3	1,559
令和3年	36	43	110	60	102	140	288	209	144	117	51	66	1,366
令和4年	7	26	65	162	110	159	278	123	233	109	64	25	1,361
平均値① (S40~R4)	35	40	71	96	114	164	190	209	232	159	59	32	1,401
平均値② (H15~R4)	34	39	76	96	118	165	206	183	227	210	59	45	1,458
令和5年	6	25	86	39	142	296	47	173	173	67	1		1,055
平均値①に対する割合 (%)	17%	63%	121%	41%	125%	180%	25%	83%	75%	42%	2%		75%

注) 平均値①はデータが存在する期間(58ヶ年)を平均したもの  
 平均値②は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したもの

2) 荒川4ダムの貯水状況等（令和5年11月6日0時現在）

荒川4ダムの貯水量は、1月から4月の少雨の影響により、平均値を下回ったままの状態でした。6月は台風2号の影響等により貯水量は増加しましたが、7月下旬より河川流量の低減に伴いダムからの補給量が増加しました。8月中旬の台風7号の影響を受けて以降、貯水量は増減を繰り返しながら少しずつ増加し、11月6日現在の合計貯水量は、7,025万m<sup>3</sup>（貯水率49%）となっています。（図-6、表-6参照）

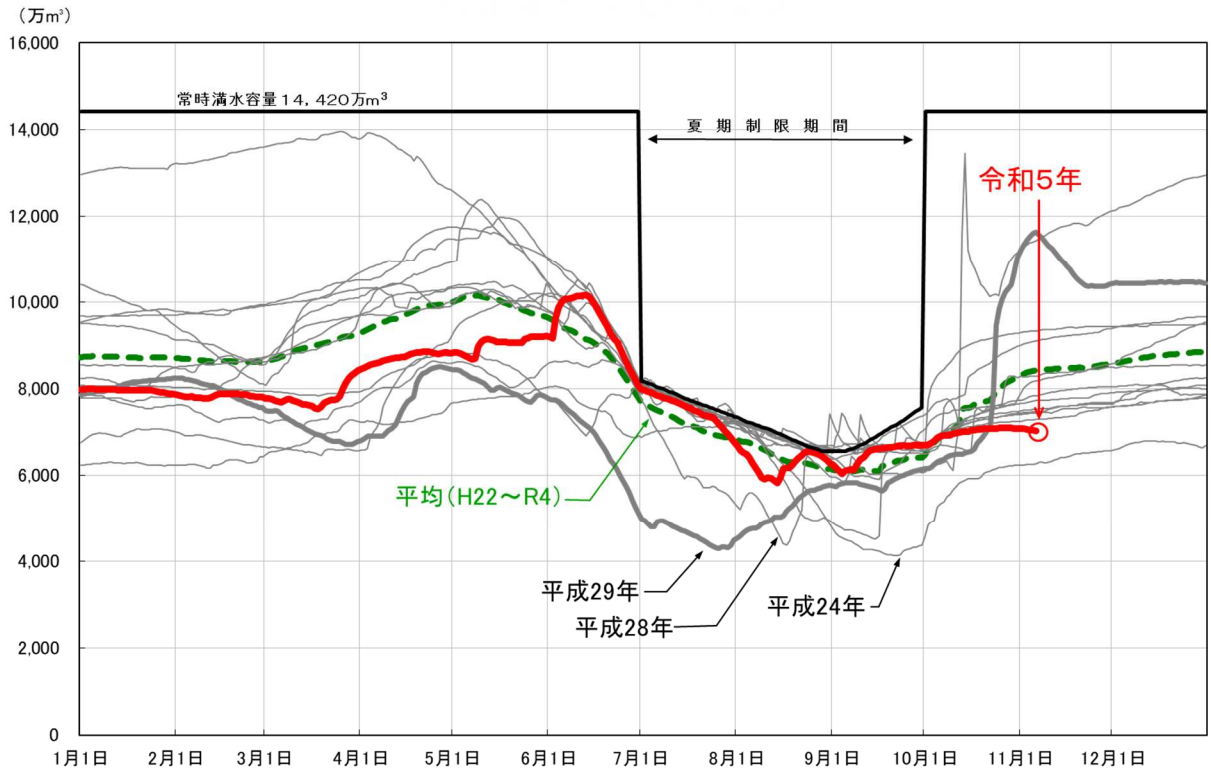


図-6 荒川4ダム合計貯水量図（令和5年11月6日0時現在）

表-6 荒川4ダム ダム別貯水量（令和5年11月6日0時現在）

ダム名	有効容量 (万m <sup>3</sup> )	貯水量 (万m <sup>3</sup> )	貯水率 (%)
二瀬ダム	2,000	36	2%
滝沢ダム	5,800	2,637	45%
浦山ダム	5,600	3,346	60%
荒川貯水池	1,020	1,006	99%
4ダム合計	14,420	7,025	49%
4ダム合計の平均値 (平成22年～令和4年)		8,422	(平均値に対して83%)

※有効容量は常時満水容量であり、貯水率は常時満水容量に対する貯水量の割合

#### (4) 多摩川水系

##### 1) 小河内ダム地点上流域平均降水量の状況 (令和5年11月6日0時までの降水量)

小河内ダム地点上流域における降水量は、1月は平均値(大正14年~令和4年)の約14%(6mm)、2月は平均値の約50%(27mm)、4月は平均値の約46%(51mm)と平均値を大幅に下回る月がありました。6月には台風2号の影響等による降雨で311mm(平均値181mm)となり平均値を上回りましたが、7月は平均値215mmを大幅に下回る約27%(58mm)でした。8月は平均値の約107%(263mm)となりましたが、9月は平均値の約67%(167mm)、10月は平均値の約36%(63mm)となっており、平均値を下回る傾向が続いています。(図-7参照)

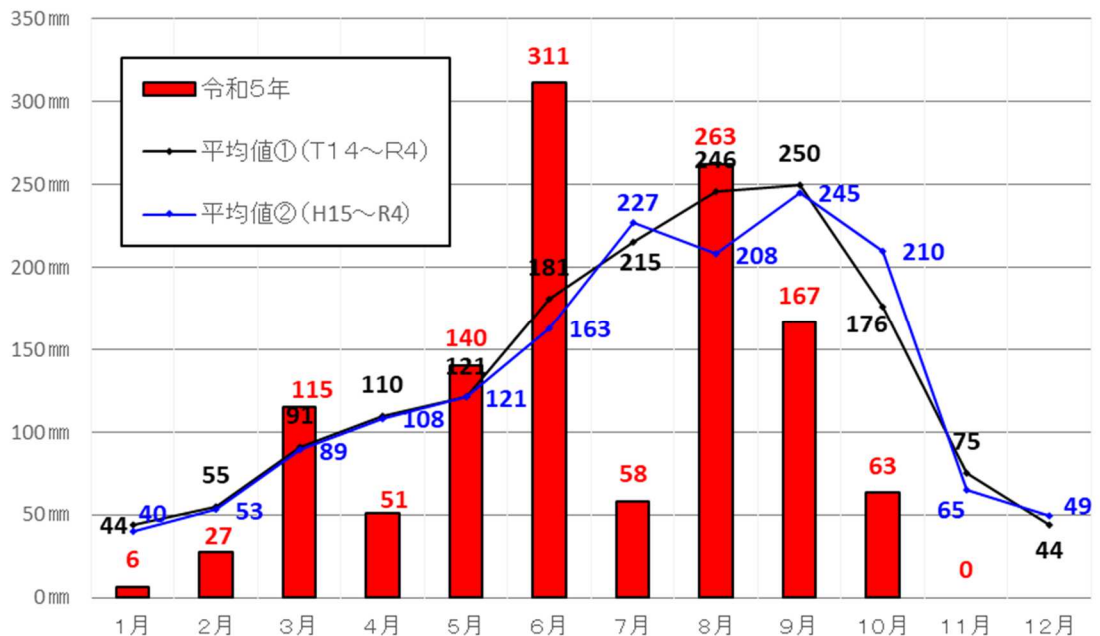


図-7 多摩川小河内ダム地点上流域平均降水量 (令和5年11月6日0時までの降水量)

##### 2) 小河内ダムの貯水状況

令和5年11月6日7時現在の貯水量は、1億5,186万m<sup>3</sup>となっています。(図-8参照)

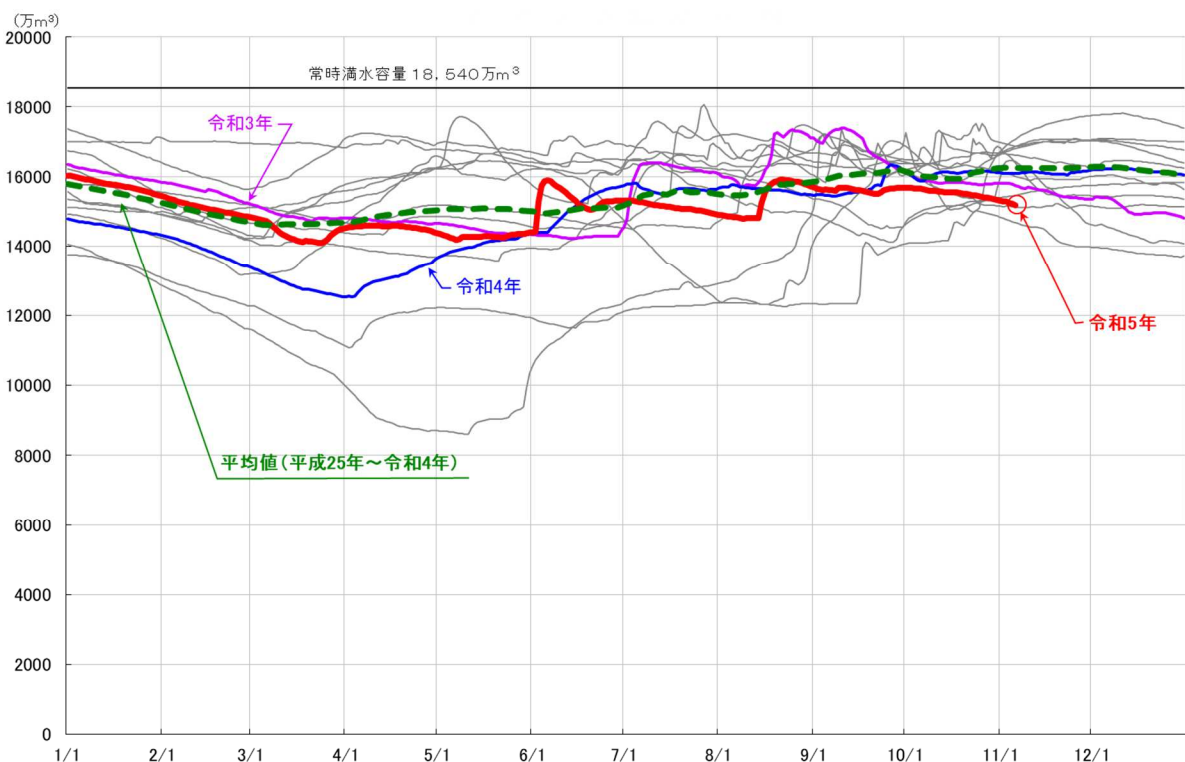


図-8 多摩川小河内ダム貯水容量図 (令和5年11月6日7時現在)



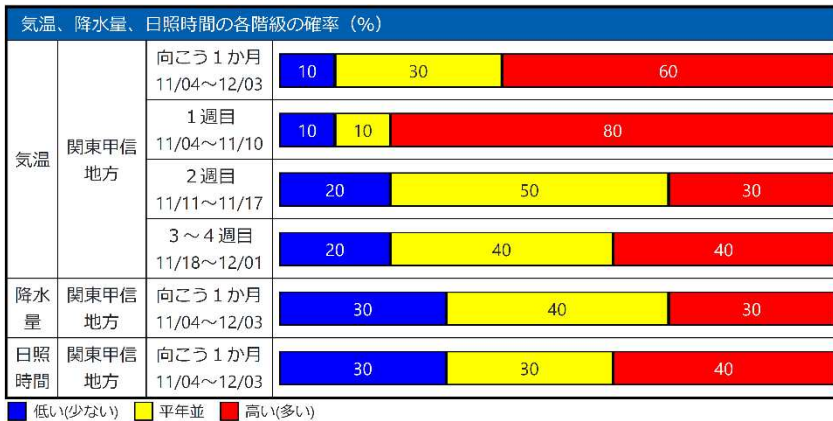
## 2. 今後の見通し

### 気象予報

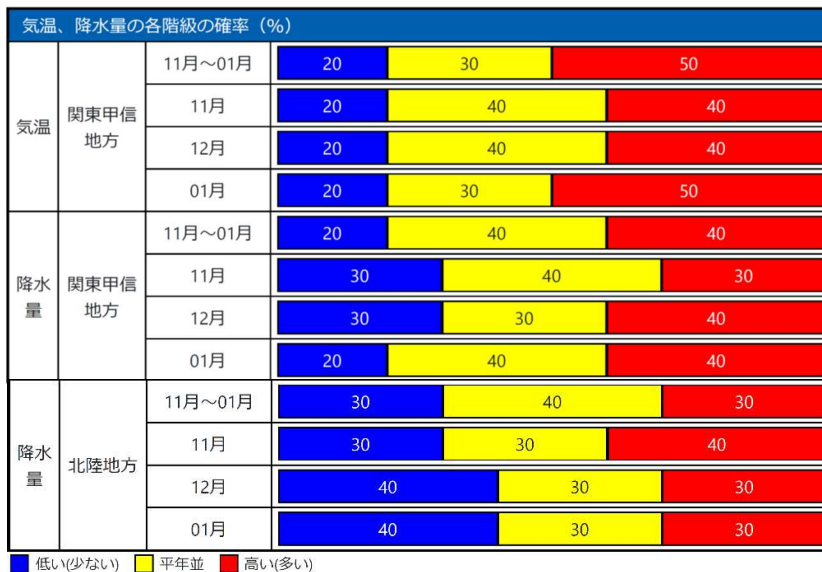
令和5年11月2日気象庁発表の関東甲信地方の1か月予報(令和5年11月4日から令和5年12月3日までの見通し)によると、向こう1か月の気温は「高い」の確率が60%、降水量は「多い」の確率が30%となっています。また、令和5年10月24日気象庁発表の3か月予報(令和5年11月から令和6年1月までの見通し)によると、向こう3か月の気温は「高い」の確率が50%、降水量は「多い」確率が40%となっています。

なお、令和5年9月19日気象庁発表の寒候期予報(12月～2月までの天候の見通し)によると、関東甲信越地方の今冬は、気温が「高い」の確率が60%、降水量が「多い」確率が40%となっています。

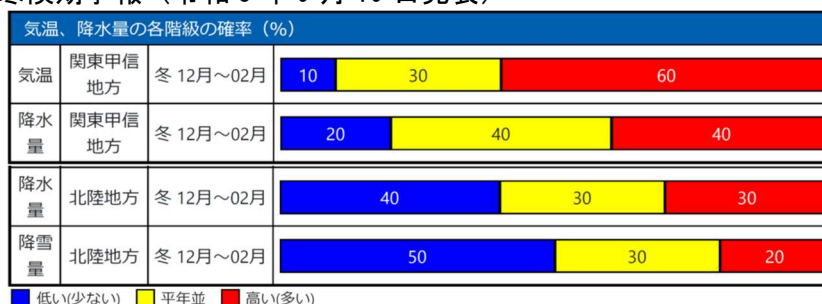
#### 1か月予報(令和5年11月2日発表)



#### 3か月予報(令和5年10月24日発表)



#### 寒候期予報(令和5年9月19日発表)



### 3. 今後の対応

- 今後は、利根川上流域の降水や積雪状況、都市用水の水利用を十分考慮し、工事に伴う貯留制限による利水容量への影響を最小限にするよう努めるとともに、既存施設等を広域的かつ効果的に活用してきめ細かな運用を行っていきます。
- 利根川水系渇水対策連絡協議会としては、必要に応じ幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していくとともに、取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的に行っていきます。